

## 第42回臨時委員会議事録

1. 日時 昭和31年9月4日(火) 午後2時15~6時10分

2. 出席者 正か委員長 石川、有次各委員

青藤政務次官、佐々木局長 法貴次長 島村政策課長 藤波管理課長 荒木調査課長 堀助成課長 鈴木アイソトープ課長 山崎 松友 田宮 肥田 川島

原研：駒形副理事長

文部省 稻田大学々術局長

京大 岡田教授 西助教授

地質調査所 佐藤物探部長外

3. 議事次第

- (1) 国際原子力機関規約案
- (2) 地質調査所のウラン探査概要
- (3) 京都大学における原子炉設置計画
- (4) その他

#### 4. 配布資料

- (1) 日本の原子力
- (2) 国際原子力機関憲章案についての問題点
- (3) 対米照会事項に対する回答
- (4) 研究用原子炉設置に要する経費要求書  
(京都大学)

#### 5. 審議、決定及び報告事項

- (1) 地質調査所のウラン探査概要  
担当官より現状につき説明諒承した。
- (2) Cp-5の輸入契約について  
駒形副理事長より A.M.F. と契約した至週等につき説明諒承された。
- (3) 京都大学の原子炉問題について京大岡田教授 稲田大学々術局長出席し至週、計画内容につき説明特に土地、所有、管理方式等につき意見を交したが結論に至らず、土地については資料により今後検討を行うこととされた。
- (4) 国際原子力機関規約草案について  
特に問題点につき説明を行い諒承された。

#### 6. 議事経過

##### (1) 地質調査所のウラン探査概要

地質調査所係官より現在同所で行っている探査の概要について

鳥取、岡山、熊本、香川、秋田各県下の調査先についての状況を報告、諒承された

##### (2) Cp-5の輸入契約について

駒形副理事長より次の報告が行われた

(駒形) 本件については、G.E.、M.A.A.、A.M.F.、A.C.F. の4社が見積に応じた。関係技術者がそれぞれノース名来て打合せをしてくれた。

A.M.F. は1万KW で  $10^{14}$

A.C.F.、G.E.、M.A.A. は 5,000 KW でそれぞれ

$8 \times 10^{13}$ 、 $9 \times 10^{13}$ 、 $8^{13}$  程度だ

利用度を考えると  $10^{14}$  の方が試験範囲も広く工合がよい たい燃料要素が問題 現在動いているものは、アルコンタの1000 KW (改造後4,000 KW) だが大体现在程度だと1万KWの燃料要素はできる。

又 A.M.F. も保証するという事だ 値段は見積では、

重水、燃料、計測器などの面で一様でない。  
大体 215~280万ドルの間だ 出力を考えるとAMF  
Fが割安となる。やり方として日本のメーカーを下  
請して使うので実際払う金は149万5000ドル 保証  
は全部AMFがみる。駄目だった場合自分が作りか  
えるギヤランテイスル 日本のは 三菱グループを  
使う 149万5000ドルのうち50万ドルばかりは国払  
で下請に出す、ドル払は90万ドル 燃料保証は12  
ヶ月、保証にはギヤランテーターとフランテーターとあ  
りAMFはギヤランテーター 他はフランテーターだ  
納期はAMF 18月 ACF 12月+船積期間G.F.  
NAAは2年だ  
18月だと来年一様に据付完了する 又35万ドルの  
援助はCP-5でやりたい

(石川) 大体よいだろう

(佐々木) 藤岡委員から電報があり ACFがよいと思  
うといつて来ている しかしAMFの方がよいだろ  
うといふことで……

(駒形) AMFの方がACFよりずっと大きいNAAと

GE、は始から考えてなかつたACFの方がCP-5  
と同じものをボストンで建設イタリーも契約した  
ACFはCP-5ではかなり出ている AMFはスイ  
ミングプール、コントロールは ACFはAMFに  
頼むのだそうだ

(資料により説明)

(島村) これは研究所でこういう炉を作るということ  
を 委員会として継承するということだろう。

(佐々木) そうだ

今年の予算について1億4000万円ばかり足りない。  
今日の話では補助金で負担になるのが又億ある、研  
究所では之を廻してくれといっている、よからうと  
話して来た

(石川) 米国の35万ドルは出来てからくれるのだ

5.30 正カ委員長退席

本件は以上で継承された

(心) 京都大学の原子炉問題について

文部省稲田大学々術局長及び京大岡田教授出席、委  
員会として正式に計画を聴取した。

(稲田) 昨年調査会時代計画書を出した調査会としては32年度を目標に関西に炉を置く話があった

次いで京大側より計画の内容につき説明

(佐々木) 32年度の予算要求によると理想的なものを造られるようだが 炉を中心にしばつてほしいという考だ。31年度予算も手がついていない 使えるよう決めてくれと言って来た。私はよかろうと云っていたが よく聞くと未解決の部分があり土地が洪水のとき心配、運営も組織がはつきりしない 又現在炉は東海村に集中する方針だが 大学は特例とするか それとも運営は運営委に委せるとしても 全然分けて了うのはどういうものかということだ

(稲田) 洪水については説明した通り大丈夫だ共同利用という点は すでに例があり適当な管理方法はやりたい 又大学だけで独占しようとは思わない たゞ31年度予算に組んであるので何とか実現したい

(石川) 水の問題下の方はどうかと思う、炉は持つ

ても 相当掘らねばならぬ 研究施設を充実して行かねばならぬ、その場合あそこが適当かどうかは根本問題だ。この疑問はまだとけていない、予算は始めから運営委を作つてやつてもらいたい。

(岡田) 土地は火葬場あとで二地区ある将来の施設は十分間に合う

(佐々木) 運営形体はのばしておいてもよいが建築物をたてるとなると敷地が問題だ。

(石川) スイミングプールをおくことは大体決つている金は手付に使つてもよい

(稲田) 本年度に実行したい 建物の建設費だ

(石川) 決して100といつていのではない

(島村) どういう構想で運営委を作るか

(有沢) その前に管理、所有をどうするか問題だ京大を特例とするか 大学を特例とするか他にもそれぞれ理由はある、管理は当分の間は原研でやるという建前にしておけば……

(岡田) 決して応用方面に進むべきでないと考えている。基礎と養成、その面からの協力が大学の使

命だ 根本的にはそこから判断した

(有沢) そのことはよい 所有権...つまり日本全  
体としての炉の管理ということだ---

(稲田) 分けねばならぬ理由はない

(岡田) 運営管理は京大で責任をもつ所有権は原研で  
もよい

(島村) 決ればころいう風にやるということを---  
具体案を出していただいたらよい

(佐々木) 管理法が出来るまで原研が主体となり---  
応支所のようにして大学から切りはなし、運営は  
運営委をつくらせてやるという風にできないか

(岡田) 附置研の特長を生かしたい、附置研の組織  
は永久的な生命だ、大学の気分がうまく利用され  
ている 所属はよいが附置研のような運営をした  
い。

(有沢) 所有権は原研が持ち運営を運営委に任せる、  
相当多額の金をかけるのだから---日本全体がそ  
うかたちにならないか

(佐々木) 関西で委員会を作って土地運営について

の意見を出していただいたらよい。

(稲田) 関西の共同利用とは限らない、相談の範囲を  
どの程度とするか、国の予算で講座をおくのは京  
、阪両大学だ、現実に中核となる両大学は 大体  
よいと云っている 土地の疑念が晴れば、それ  
も解決の方法だ。

(佐々木) 調べるようにしたらよい、専門家へ調査を  
頼む 先方で運営委を作り運営の組織を整備して  
いただく、成るべく早くこの二つを完成し、経過  
措置として承認するという-----

所有権、管理権はあとにのばそう-----

(島村) 調査は資料をもらい 更に調べる必要があ  
ればということで こちらからわざわざ出かける必  
要はないだろう。

(岡田) 従来の経過を借してほしい。

(4) 国連原子力規約草案について

調査課長より資料により尚懸点を説明致された。

以上で6時10分散会